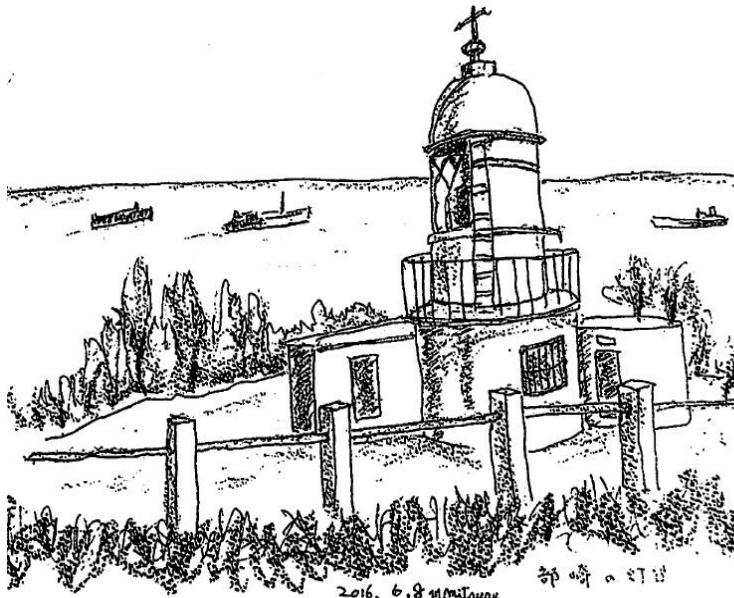


週報2020年11月8日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年11月8日

オルガン：力丸勝子 師・ピアノ：赤松眞佐子 姉

前 奏

開会の祈り 司会者 吉武尚美 姉

信仰告白 使徒信条・標語聖句唱和

賛 美 新聖歌 242 「われに聞かしめよ」

\* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ \*

献身の祈り 坂本良男 兄

賛 美 新聖歌 429 「地の塵に等しかり」

聖書朗読 マタイによる福音書 27章 11～26節 山崎銀次郎 牧師

メッセージ 「人の裁きと神の裁き」

祈 り

頌 栄 主の祈り

祝福と派遣の祈り

後 奏

交わりの三省

\* 互いに愛し合っていますか

\* 互いに赦し合っていますか

\* 互いに祈りあっていますか

# 説教要約

マタイ 27 章 11～26 節

「人の裁きと神の裁き」

## ①恐れと信仰について

ピラトはイエス様に対して何の罪も見い出せませんでした。だから釈放しようとしたのです。ここが重要なポイントです。しかしユダヤ人の「十字架につけろ」という常軌を逸した要求。そして問題を起こせば自分が処罰されるという、ローマ帝国側の強い圧力の板挟みに遭ったピラトは葛藤の末にイエス様をユダヤ人に引き渡しました。

ピラトの妻がイエス様について夢を見ます。そこで彼女の下した判断は「あの正しい人にかかわり合わないでください」でした。マタイの福音書には 6 回“夢”という言葉が出てきます。その内、5 回は神様がヨセフの夢に介入し、危機的な状況を救い出す、というものでした。ピラトの犯した間違いは恐怖に支配され、イエス様をメシア（救世主）として受け入れなかった事です。

権力闘争が引き起こすストレス社会。新約聖書の時代もそして現代も人々はこの重圧にさらされています。今日の箇所が私達に教えている事は、神は試練と同時に脱出の道を備えられる方だという事です（I コリント 10：13）。つまり私達に起こるピンチは、神様を畏れるチャンスになるという事です。イエス様は信仰者の前を歩み、信仰の道を切り開いた方です。このお方に信頼する時、信仰の道は切り開かれて行きます。

## ②イエス様の信仰について

ピラトはユダヤ人の圧力とローマ帝国の圧力の中で極度の恐怖心を抱え、「何が一番正しいか」という判断が出来なくなりました。しかしイエス様は人の欲望、恥、妬み、怒りや憎しみを全て背負い、十字架の道を歩まれました。ここに聖書の光と闇が描かれています。マタイ 20 章 17～19 節をご覧ください。イエス様は世の光として闇の中を歩まれました。これは父の計画が一番正しいという事を受け入れきった、御子の従順な姿です。

イエス様はピラトの尋問の時、一度も自己主張をしていません。これ

はピラトを大変驚かせました。なぜならピラトが裁いてきた数々の罪人（特にローマの反逆者）はこの世の不条理を叫び、ローマを罵ってきたからです。イエス様は沈黙を貫く事でピラトにメッセージを投げかけています。“究極の愛は従順な自己犠牲の中で表される。” イエス様は自らの命を犠牲にして全ての人を暗闇から救い出されました。

ピラトへのメッセージは私達のメッセージです。私達はこの世の不条理を受け止める事が出来ず。心の中で暴動を起こします。そしてその暴動は目に見える争いへと発展して行きます。これが世の中です。私達が黙る事が出来ない時、その隣にイエス様がいます。そして私達の為に執り成して祈って下さいます。私達がすべきことは静まって主に全てを委ねる事です。その時、私達が歩むべき道を主が開いて下さいます。

## ③人の裁きと神の裁き

ピラトはイエス様をユダヤ人に引き渡しました。その際、ユダヤ人の前で手を洗い、「この人の血について、私には責任がない」と言いました。そしてユダヤ人が言ったことは「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい」です。こうしてイエス様は十字架にかけられ死なれました。ユダはイエス様を裏切った後、自ら犯した過ちに耐え切れなくなり、命を絶ちました。聖書は読む人全てに“血の責任”について問いかけています。

恐怖心に支配されると、自己中心的になり、他者を蔑ろにします。王や権力者（ヘロデ、ピラト、律法学者）の末路は自己保身の為に人の命を殺めています。憎しみや妬みも同じです。そのような自己中心の結果、一人の罪なき御子の命が失われました。しかしイエス様は強いられてではなく、巻き込まれたのでもなく自ら進んで十字架にかかられました。その流された血潮によって全ての人の罪が赦される為です。

キリストの愛が心を占める人には平和が宿ります。そしてその人はキリストの愛から来る喜びによって、隣人との関係を豊かに結ぶようになります。自然とそのような生き方を選ぶようになります。つまりイエス様が山上の垂訓で語られた“平和を作る者”そして“神の子ども”です。**本当の愛を知っている人は赦された人です。**人の裁きを恐れる者ではなく、神の裁きを畏れる者、つまり神の愛と赦しを受け入れる者へと導かれてまいりましょう。